

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470301017
法人名	鈴鹿インター株式会社
事業所名	さつきの里グループホーム
所在地 (電話番号)	鈴鹿市伊船町北上の割2020-3 (電話) 059-371-6300
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 12 月 3 日(水)

## 【情報提供票より】 (H20年11月3日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 9人, 非常勤 12人, 常勤換算 9.1人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

### (4)利用者の概要( 11 月 3 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	鈴鹿クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

縦横に走る幹線道路の交差点から数メートルなかほどに2階建ての事業所がある。デイサービスと併設され、フェンスから敷地内に入ると、広い駐車場があり、事業所の門扉から建物の向こう側に中庭と主にデイサービスで利用しているミニ菜園がある。周りは大きな物流倉庫やホンダの車置き場、大型ショッピングセンターが建ち並び、畑は植木が育成されて民家は無い。地域との関わりがなかなか困難なか、併設のデイサービスとの交流をしたり、デイサービスの車を利用して、ドライブに行くなど気分転換をはかる努力をされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題とされたところについて、一つひとつ検証し、運営推進会議を開催、金銭報告の確認など改善につなげている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員が記入し管理者がまとめ報告された。職員が取り組むことで、改めてその中から気づくことが出てきて介護ケアの充実につながるよう意識の統一が図られた。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は前回の外部評価後の20年1月に初めて開催され、本年10月に3回目が開催された。地域の自治会長、民生委員、介護相談員などが参加され、事業所の紹介をし、活発な意見交換がされた。自治会長から地域の老人会の行事の案内があり、来年にはぜひ参加したいと期待をしている。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱が設置され、重要事項説明書に苦情窓口が明記されている。面会時などに思い、意向などをいつも聞き、何でも話してもらえよう心がけている。出された苦情にはすぐ対応するようにしており、改善後は家族へも説明し理解を得ている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近辺に民家がないので、日常的なつきあいが出来ない。デイサービスの利用者との交流、保育園児や小学生の慰問などがある。事業所として、年に4回、「健康教室」「栄養教室」「リハビリ教室」などを開催、そのうち1回は家族、地域の方を招いて家族交流会を開催している。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の鈴鹿インターの社長が、この地域にお世話になった恩返しの気持ちから、福祉事業に参入された経緯があり、開設当初から「地域と融合し、安心と信頼を感じてもらふ:里:とする」を運営方針の一つとされ、地域密着型サービスとしての基本を踏まえたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間兼食堂に理念を掲示すると共に、月に1回の職員会議の場や職員が利用者に接する対応時に気づいた時、折々に管理者から話されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入している。保育園児、小学生の慰問を受け入れたり、中学生の職場体験をしてもらうなど交流をしている。事業所が地域の方を招いて、年4回介護教室を開催し、毎回30人前後の参加がある。又、そのうち1回は、家族の参加をってもらう家族交流会を開催している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、先ず全職員が評価表に記入し、そのなかで気づいたことなどを明らかにし、最後に管理者がまとめられている。前回の外部評価の懸案事項で、運営推進会議の開催や金銭面の報告等改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回、改善の指摘を受けて、本年1月から自治会長、民生委員、利用者家族、利用者等の参加を得て運営推進会議が3回開催され、事業所の現況報告と合わせ、地域交流や運営上の意見交換が行われている。	○	今後は、行政や地域包括支援センター等の参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことを教えてもらうことや書類申請等々で鈴鹿亀山地区広域連合(鈴鹿市役所内)と行き来している。また、介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「さつきの里」便りを月に1回家族へ送付し、近況を写真入りでお知らせしている。前年度外部評価で指摘があった金銭出納の確認については、それぞれ出納記録を領収書と共に送付し、来所時に事業所の控えにサインか印鑑をもらい確認してもらうように改善された。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付ボックスの設置や、重要事項説明書に広域連合、国保連合等窓口を明記すると共に、面会時に家族から要望など何でも話してもらえるように心がけている。運営推進会議へ出席依頼、また、家族交流会の場でも思いを聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員共異動、離職者はなく利用者との馴染みの関係はよく出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム連絡協議会の研修は順次参加している。外部研修は、テーマにそって参加がされている。本年度、資格取得を目指して数名がチャレンジし、事業所内で管理者が試験対策の勉強会を指導するなど応援体制がとられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入して、研修に参加している。鈴鹿亀山地区で小規模施設の連絡会「おたっしゃ広場」の作品展の参加をしており、交流の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスから事業所への利用もあり、スムーズに事業所での生活に馴染んでいる方もいる。特に体験入所をしていないが、その方の情報収集をし、24時間シートを使って慣れていただくよう介護に努めている。家族の泊まりも可能なので、その旨家族へはお知らせしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶことも多い。針仕事などは高齢であっても上手にされ、職員が教えてもらっている。昔ながらの生活習慣も今では忘れがちであるが、時節折々に教えてもらう。元気に過ごしたいのが一番の望みで、一緒にリハビリ体操に励んだり、カラオケで歌ったりして過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が主役で、職員は黒子であるとの管理者の思いから、いつも利用者が何をしたいか、どう思っているかを把握するよう職員に働きかけている。寄り添うことから、言動、表情でシグナルをキャッチするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの聞き取り、月に1回の会議でのカンファレンスで介護計画を作成している。作成した計画書は職員に回覧し、意見等あれば再度検討し作っている。計画書は家族へも説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の作成期間は1年としているが、毎月カンファレンスをしてそこで見直しをしている。大きな変化があれば随時見直しをして計画書を作成している。	○	計画書の大きな変更までに至らなくとも、毎月のカンファレンスでの小さな変化もその都度記録として日付けを記入し、一定期間(3ヶ月程度)の定期的な見直しの計画書を作成し、利用者または家族の同意を得ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望のある医院への送迎及び通院介助、また免許を持った職員による散髪、併設のデイサービスのお迎えにドライブを兼ね同乗するなど柔軟な対応をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の同意のもと、全員が協力医がかかりつけ医となっている。そのうち、何名かは在宅医療総合管理を契約され、2週間に1度往診があり、24時間医学管理が可能である。他の方は月に1回、往診をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最期まで事業所での利用者、家族の思いがあり、管理者も出来るだけ希望に添いたい意向である。在宅医療総合管理を含め、かかりつけ医との連携、看護師、職員の配置、等々現在それに向けての書類を作成中である。	○	重度化や終末期の対応についての事業所の方針を定めて、医療機関や家族の協力と職員の理解に合わせて、書類の整備等を課題として取り組まれるよう期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけも穏やかでプライバシーを損ねる印象はない。個人記録は事務所内にきちんと保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは概ね決められているが、その方の体調、気分により起床、食事、入浴時間等柔軟に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ちゅう					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設のデイサービスとともに、業者委託されて出来上がったものが配達されてくる。利用者は盛り付けの手伝いや、おしぼりを配る等準備をされている。1, 2ユニットともに食事介助のいる方があり、傍らで介助をしながら職員も食事をしている。月に2~3回、出前(寿司、鰻)の食事が喜ばれている。朝、夕の献立は職員が立てている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助のいる方が、各ユニット2名みえる。その方は週2回の入浴で、他の方は毎日入浴が可能である。時間は午前10時~午後3時頃、お好みの入浴剤を入れる等ゆっくり入ってもらうようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに洗濯物干しや食事の配膳、下膳、掃除、観葉植物の手入れ、等々役割がある。デイサービスの方との交流やカラオケ、作品展への展示品の作成、スロットも最近購入され楽しみになっている。買い物やドライブでのお出かけは楽しみであり、気分転換にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内が広いので、中庭の散歩や日当たりのよい所でのひなたぼっこ、外で健康体操したり、近くにできたショッピングセンターへ歩いて買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかかっている。階段の安全面を考慮して階段に面した1階、2階にシャッターが下ろされ、鍵がかけられている。	○	シャッターを下ろさなくてもいい見守りが可能な時間帯を検討し、下ろさないでもできるケアの工夫を期待する。また、併せてシャッターの改良と施錠についての検討もされるよう期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力のもと、避難、防火訓練が行われている。また、本年は夜間を想定した避難訓練が実施された。	○	夜勤者1名での夜間を想定した訓練をして、1階、2階とも玄関や非常口からの避難が困難なことが明らかになった。ハード面では母体の会社と相談し改善が望まれるが、さらに民家と離れていても、いざという時の地域の協力は不可欠である。地元の協力を得ての避難訓練の実施も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は業者の栄養士の献立で、朝夕も偏ることのないようバランスを考えて食事を提供している。食べる量や水分補給も記録をとって十分に補給できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットともに広い空間でゆったりしている。リビングは畳のコーナーがあったり、大きなソファが置かれ、居心地がいい。2階からは鈴鹿の山が見渡せ、窓から景色を眺めるのも季節感を味わえる。掃除も行き届き、気になる臭いもない。窓から注がれる光も暖かさを感じる。大型の加湿器が設備され、健康への配慮が伺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く、それぞれに洗面台が設置されている。テレビや小さな箆笥、机、椅子など思い思いの物が持ち込まれ自分らしい居室になっている。		